令和7年6月22日

**第14期（令和７年）通常総会資料**

**第1号議案　令和6年度事業報告**

**1.1.事業報告の概要**

令和6年度も概ね、計画どおり実施できた。当初は、令和7年4月の移転を見据え、多くのイベント、教室は12月までに集約し実施回数も減らす計画だったが、９月に移転しないことが決定したため、各部会で計画を見直し、最終的には、前年度と同様の活動が実施できた。また、就業規程やハラスメント規程・対策を見直した。外部との交流として「丸山大ホコテン」への参加、明治学院大、関東学院大との連携（日本語教室受講生との交流など）や、別所ケアプラザ、上大岡コミュニティハウス、笹下中学校へ講師の派遣も行った。さらに、南高留学生はラウンジ祭りに参加して、相互の文化交流にもなった。

**1.1.1 委託事業**

1）窓口業務：いろいろな国の出身の相談者が増えた。市民通訳ボランティアの依頼数は、新しいラウンジができたこともあり少しだけ減少したが、市民通訳・学習支援ボランティアとも、希少言語の依頼も多く、ボランティア探しに苦労した。７月に野庭団地に住むウクライナ避難民の方々と面会し、困りごとなど現状を伺い、その後日本語教室に入会した方もいる。

個人レッスンは、働いている外国人が多くなったことから、希望者が増加している。

2）日本語教室：学習者は125名おり、コロナ以前の活気を取り戻している。日本語ボランティア入門講座も再開、修了者がすでに活動を始めている。明治学院大学のゼミの学生との交流も前年に引き続き行った。

3）小中学生の学習支援教室（はっぱ）

学校の行事や部活を優先する生徒も多く、生徒の参加率は満足ではない。大学生のボランティアに協力してもらった際は、生徒たちの違った様子を見ることもできた。

教科書改訂に伴い、新しい教科書を購入した。

4）「港南国際交流ラウンジ祭り」は、ひまわりの郷ではなく、ゆめおおおかオフィスタワーの会議室で開催した。出場者と観客の距離が近い分、アットホームな雰囲気が好評だった。スポーツのボッチャや、5か国のミニ外国語教室も人が集まった。

「国際交流のひろば」は、来場者数は横ばい、民族衣装試着や外国語教室なども開催したが、新しいボランティア獲得にあまり繋がらなかった。

**1.1.2 自主事業**

1）事業企画部会：

・全体としては計画を上回った。「ネイティブに学ぶ外国語教室」は10教室を継続して開催。「Bogo カフェ」は「ハロウィンパーティー」を開催。外国語スタッフ、外国語教室講師の自国の料理教室を開催。一方で「世界の赤ちゃんとママのひろば」は外国人のニーズを十分につかみきれず残念ながら実施を断念。7月に開催したバーベキュー大会には54名が参加し、部会員相互の交流となった。また、ラウンジ祭りでは無料で外国人スタッフの手作り弁当を配布、中国茶カフェに日本語学習者が多く訪れるなど、さまざまな場面で国際交流を深めることができた。

2）情報広報部会

・全体としては計画を下回った。

・PC教室は外国人受講者の減少傾向が顕著になっているため、名称を変更（マンツーマンによるパソコン教室）し、受講者が増加した。

・国際理解講座の初心者向けの「リモート初級スペイン語」は、はじめは参加者の人数は多かったが、次第に減少しアナウンスしても増加がみられなかった。

・短期英会話は、ほぼ計画通りだが、時期により申し込み数に偏りがみられた。

・外国人のためのスマホ勉強会を開催した。意見交換により今後の進め方の参考となった。

3）理事会扱い

①世界の屋台村は、10団体が出店。雨降りの悪天候にもかかわらず、多くの来場者があり、どのブースも賑わった。各部会からもボランティアとしてたくさんの方にご協力いただいた。

②外国につながる高校生のための フリースペース

・ボランティアは確保できたが、外国につながる高校生の参加者が年間通して数人となった。半面、一般の高校生で国際交流に興味のある生徒の参加もあった。4年間続けてきたが、一旦この事業を終了する。

③日本語会話クラブ

・開催場所を変えたことで、大幅な予算の下回りがなくなった。異文化コミュニケーションの場、日本人・外国人参加者が平等な立場で話せる場ができたことは大変意義がある。

④JLPT

・ボランティアが６名となり、柔軟な対応ができるようになった。

日本語教室と並行して受講する人が増えてきた。

家族を伴って来日している人も増えているので生活情報の提供も必要。

添付資料

資料1―1 事業実績（委託）

資料1―2 事業実績（自主）

**第2号議案 令和6年度決算報告**

* 1. **決算報告の概要**

収益合計は22,977,733 円となり、予算に比べて約1,074千円、前年度に比べて約971千円の増加であった。委託金が前年度より約1,213千円増加しただけでなく、各部会が拠点の移転中止決定後に速やかに事業を再開させた効果が大きかった。具体的には外国語教室、年会費、寄付金、体験教室、料理＆カルチャー交流、BBQ及びいちご狩りの収益が予算より増加した。

一方、費用合計は22,743,205円で、予算に比べて約1,056千円増加、前年度に比べて約1,272千円増加した。主な増加要因は、委託金の増加、スタッフの就業規程類見直しとハラスメント防止対策の支出であった。後者が当初見込みより大幅増となったことは反省すべき点であるが、この機に労務管理関連の強化を図ることができた。また、委託金の増加と拠点移転の中止による予算の使途変更、各会員によるイベント内容の見直し・費用削減の努力により、人件費や物価の高騰の中、窓口部、日本語部会、事業企画部会のパソコンとサーバーの購入、ラウンジの天井照明のLED化などを進めることができた。

以上の結果、当期の収支は+234,528 円となり、前年度に続き黒字決算となった。

* 1. **添付資料**

資料 2 令和 5 年度決算報告

なお、決算報告においては、委託事業には〔委託〕、自主事業には〔自主〕と記載して識別している。また、委託・自主両事業に関わる費用には、自主事業分の金額を記載した。

**第3号議案　令和7年度事業計画**

**3.1.令和7年度事業計画の概要**

移転がなくなったことにより、多くの人が集いやすい現拠点の利点を活かし、さらに、活動を拡げて行きたい。具体的には、学校、行政、他団体との連携、幅広い世代のボランティアが活動できる工夫、日本語学習者の活動参加、日本の子どもたちと外国人住民の交流、学習支援教室の充実などを目指す。あわせて、役員候補の裾野を拡げていくことも急務と捉えている。

また、外国人向けの防災啓発として、防災講座や見学ツアーの実施も計画している。

**3.1.1 委託事業**

1）窓口部

・窓口経験年数が長いスタッフが少ないことから、業務のマニュアル化を図り対応しやすいようにしていく。

・市民通訳と初期適用・学習支援対応のボランティアを増やしていくことが毎年の課題であるが、説明会・懇親会の開催を計画して増加に取り組む。

・個人レッスンボランティア、託児ボランティアとのミーティングを増やし、情報交換の場を増やす、個人レッスンの需要が増えてきているので、ボランティアを増やす。

・希少言語での、通訳依頼が増加しており、ボランティア数も少ないため、学校との連絡を密にして不成立にならないよう取り組む。

・多様な窓口相談に対応できるように研修をして窓口スタッフのスキルアップを図る。

・地域の外国人が経営する商店などにコンタクトをとり、ラウンジの存在を伝え、通訳ボランティアへの参加につなげたい。

2）日本語部会

・学習者数は教室の収容能力もあり、令和7年１月実績(125名）前後を見込みたい。

・日本語ボランティア入門・研修講座、日本語で話そうは、令和７年度も実施したい。

・明治学院大学など大学生との交流は、引き続き行っていきたい。

・各教室で行うギャザリングは、学習者同士、教室ボランティアとの交流を図る場として意義があり、継続して実施していきたい。

・ラウンジ活動について、教室ボランティアが集い、情報の共有や意見交換する場を設けたい。

・学習者数については曜日で開きがあり、研修室のMaxを超えないように学習者数が17、18名くらいで、7教室にほぼ均等に入ってくれるのが最良と考えている。

3）「はっぱ」

・事業としては、例年並みを計画している。

・数値目標：参加者数　13名　　　開催回数：28回

・新しい目標　　定期的に活動可能な新規ボランティアの勧誘

・新規事業　　　ギャザリング等での地域との連携ができるように試みたい

4）情報広報部会

・情報広報発信としてのゼロから始める認知症講座、ボランティア養成講座（委託事業）については令和7年度計画しないこととした。

5）理事会実施事項

・港南ラウンジを多くの人に知ってもらう。「ラウンジ祭り」「国際交流のひろば」の開催

・ボランティア間の交流活発化。

・役員候補の広がりの基礎作りを目指す。

**3.1.2 自主事業**

1）事業企画部会

・事業としては、例年並みに留める。

・「ネイティブに学ぶ外国語教室」は10教室を年間30回開催する。

・日本伝統文化を外国人と一緒に楽しむ企画を増やす。

・外国語スタッフや外国語教室の講師によるその国の歴史・食文化を地域の人と共に一緒に楽しむ企画を増やす。

・外国人学習者と会員の親睦会を日本語部会と協力して年2回の開催を計画し、延べ80人の参加を目指す。

2）情報広報部会

・国際理解講座は、「英語で世界のニュースを読もう」「リモート、スペイン語で世界のニュースを読もう」に変更する。

・短期英会話等の外国語教室は人気がありキャンセル待ちになる時も多いが、7年度は「やさしい英会話」だけとする。

・PC教室は、「外国人優先」を改め「国籍・年齢問わず」として日本人枠の制限を撤廃する。

3）日本語会話クラブ

・日本で生活する外国の方が増えているという理由から、従来の活動内容（テーマを決めてそのテーマに沿った自分の体験や考えを伝え合い、お互いを知り合う）に加え、日本語を初めて学ぶ外国人を対象に「横浜で暮らす日本語」として日常生活に必要な言葉や表現、情報を学ぶグループを新設したが、実際の参加者はほとんどいなかった。今後は、日本語教室の日本語ボランティアや窓口スタッフにもこの会の趣旨、内容を周知し、参加者を増やしていきたい。

・参加人数を増やし収支を黒字化したい。目標参加者数　1回８名　開催回数　23回

4）JLPT

・ボランティア5名×2期。学習者10名×2期。賃借料を抑える。

・通訳ボランティア登録を勧める。事業企画部会と連携して交流イベントの担い手となる人材の発掘。教室終了後もラウンジとの繋がりが途切れないようにする。Facebookでの告知も検討している。

5）理事会実施事項

・外部との連携。子どもゆめワールド「世界の屋台村」の実施。

3.2　添付資料

資料3-1 事業計画案（委託）

資料3-2 事業計画案（自主）

**第4号議案 令和7年度予算案**

予算案の概要

収益は、委託金が前年度に比べて694,424円の増加（内、200,000円は在住外国人への防災啓発活動予算）となった他は、ほぼ前年度予算と同様かそれ以下の予算とした。

一方、全体の費用予算は23,003,360円となり、前年度実績に比べて約260千円増加した。これは主に自主事業費用の予算が、前年度実績よりも少額に設定されているためであると思われる。そのため実績は前年度と同様に、予算を上回るものとなる可能性がある。

以上の結果、令和7年度の収支は413,800円の黒字の見込みとなり、各既存事業の充実をさらに図れ、新規企画の挑戦も可能となる予算となった。

添付資料

資料4 令和7年度活動予算案

なお、活動計算書案においては、委託事業は〔委託〕、自主事業は［自主］と記載して識別した。また、委託・自主両事業に関わる費用には、委託事業と自主事業の金額を各々記載した。

以上